

ドキュメンタリー映画

『Given～いま、ここ、にあるしあわせ～』

2017 年度学校啓発事業報告書



公益社団法人
難病の子どもとその家族へ夢を

ご挨拶と事業経過

公益財団法人日本財団トゥースフェアリー助成事業で製作させていただいた映画「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」は、今年度は、昨年に引き続き、学校上映プロジェクトとして展開することが叶い、昨年度以上に、多くの生徒さんに観ていただき、感じていくことができたことと自負している。今までに、難病という言葉にも、難病と向き合っている子どもにも家族にも縁がなかった多くの青少年児童や学校関係者の方たちにも、様々な形で貢献することができたことは、公益法人の活動としても、非常にありがたく光栄なことであった。ここに、改めて、公益財団法人日本財団並びに、日本歯科医師会の皆様に心より御礼申し上げたい。

ドキュメンタリー映画「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」は、小児難病の理解の為の映画ではなく、本映画を通して、映画を観る児童から青年が、他人事として難病や命のことを捉えるのではなく、自身の命や家族に向き合う機会を持つことができるよう、上映前のミニ講演やこの為に作成した「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」映画上映ノートによって、自身の命への畏敬の念を育てる機会やいじめについて考える機会を提供できるようにした。昨年に引き続き、各地の教育委員会、人権福祉の分野での評価が高く、本事業年度においては、医療関係者、特に看護専門学校や医療系の大学でのプロジェクトとしての評価も高かったことは、特筆すべきことである。また、学校等で行う為の30分間の教材版の要望が多く、「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」映画の教材版を作成し、授業で使用できたことは45分授業の対応が可能になり、クラス単位での上映も可能にし、効果的であった。

また、大変嬉しいことに、「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」は、2017年10月には、「日本医学ジャーナリスト協会賞」映像部門において大賞を受賞した。これを受けて、更に今後、様々な学校、団体、行政等においても展開ができるようにして努力していきたい。

平成 30 年 3 月 吉日

公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

代表理事 大住 力

具体的な実施状況

【実施時期】平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

【実施場所】東京、神奈川、千葉、大阪、富山、長野、名古屋、京都、鳥取、広島、沖縄

【参加人数】合計 25 回 25 校、のべ総数 5,846 名

(下記、詳細映画上映啓発活動一覧を参照)

【参加者】映画に興味を持って下さった小中高校、大学、専門学校、青少年団体

2017年度日本財団支援事業 映画「Given」学校上映啓発活動

学校・団体名	地域	種別	実施	実施日	上映回数	動員人数	備考
1 日本医療科学大学保健医療学部看護学科	北海道	私立大学	済	4/2/2017	1	189名 (含む学校教職員他22名)	
2 ガールスカウト神奈川県第3団	神奈川県	青少年団体	済	4/15/2017	1	135名 (含む学校教職員10名)	
3 西埼玉中央病院附属看護学校	埼玉県	県立専門学校	済	5/15/2017	1	439名(含む学校教職員9名)	
4 学芸大学付属中学校	東京都	公立学校	済	5/22/2017	1	127名(含む学校教職員6名)	
5 宮城県村田町立村田小学校	宮城県	町立学校	済	5/27/2017	1	312名 (含む学校教職員、生徒父兄37名)	父兄参加あり
6 一般社団法人ガールスカウト京都府連盟	京都府	青少年団体	済	6/2/2017	1	212名	
7 一般社団法人ガールスカウト鹿児島県連盟	鹿児島県	青少年団体	済	7/20/2017	1	134名 (含む関係者9名)	
8 一般社団法人ガールスカウト埼玉連盟	埼玉県	青少年団体	済	7/24/2017	1	112名	
9 大阪府立大学看護学科研究科	大阪府	私立大学	済	8/5/2017	1	322名 (含む学校職員24名)	
10 東京都立成瀬高等学校	東京都	都立学校	済	8/30/2017	1	234名 (含む学校職員24名、父兄20名)	父兄参加あり
11 一般社団法人ガールスカウト奈良県連盟	奈良県	青少年団体	済	9/5/2017	1	143名	
12 一般社団法人ガールスカウト茨城県連盟	茨城県	青少年団体	済	9/25/2017	1	248名	
13 昭和大学医学部	東京都	市立大学	済	10/2/2017	1	217名	
14 日本工学院八王子専門学校医療学科	東京都	私立専門学校	済	10/22/2017	1	332名	
15 沖縄県立向陽高等学校	沖縄県	私立学校	済	10/31/2017	1	426名 (含む学校職員24名)	
16 一般社団法人ガールスカウト兵庫県連盟	兵庫県	青少年団体	済	11/5/2017	1	89名	
17 一般社団法人ガールスカウト大阪府連盟	大阪府	青少年団体	済	11/16/2017	1	105名	
18 高知県立山田高等学校	高知県	県立学校	済	11/30/2017	1	227名 (含む学校職員24名)	
19 名古屋女子大学付属中学校	愛知県	私立大学	済	12/13/2017	1	219名 (含む学校職員24名)	
20 清泉女子大学付属小学校	東京都	私立学校	済	1/18/2018	1	239名	
21 さいたま市立第二東中学校	埼玉県	市立学校	済	1/26/2018	1	167名	
22 沖縄国際大学	沖縄県	私立大学	済	2/1/2018	1	276名	
23 横浜市伊勢原小学校	神奈川県	市立学校	済	2/20/2108	1	367名	
24 横浜私立小田小学校	神奈川県	市立学校	済	3/14/2018	1	287名	
25 沖縄県北部看護専門学校	沖縄県	市立専門学校	済	3/21/2018	1	288名 (含む学校職員24名)	
				合計		5,846名	

※ガールスカウト日本連盟は、学校ではないが、構成員の全員が学生であり、その対象の特徴から、学校上映に準ずるものとして取り扱い、活動をともにした。

『Given ～いま、ここ、にあるしあわせ～』 学校上映会 2017 感想 30 選

1. 自分の家族が元気であるということは、それだけでしあわせなのだと言感しました。 (女、25 歳、教員)
2. 自分もひとりではない、仲間がいるんだと勇気が出ました。 (女、16 歳、高校生)
3. ママと喧嘩をしていたけれど、ママにごめんね、そして、ありがとうと言おうと思いました。 (女、12 歳、小学生)
4. 早く家に帰って、お母さんの顔を見たくくなりました。 (男、19 歳、大学生)
5. 人間は強い、そして弱いけれど、愛おしい存在だと改めて感じた。 (男、42 歳、教員)
6. 病気のことなどすっかり忘れてしまい、その笑顔や互の間に存在する愛に涙がでました。 (女、27 歳、教員)
7. 涙がいっぱい溢れて、最後には笑顔で帰れる映画でした。 (女、33 歳、養護教員)
8. 幸せは、自分が決めていく、感じていくんだと思いました。 (男、18 歳、専門学生)
9. 家族が大好き、と思いました。 (女、10 歳、小学生)
10. 人ってそれぞれ尊くて強くて美しいと感じました (女、13 歳、中学生)
11. いま、自分はしっかりと生きているのか？と考えさせられました。 (女、30 歳、教員)
12. どんなことがあっても、前向きに生きる、ということが大切だと痛感しました。 (女、17 歳、学生)
13. お父さんとお母さんからもらったいのちを大切にします。 (男、8 歳、小学生)
14. 日常の些細なシーンに多くの光や強さを感じました。 (女、16 歳、高校生)
15. 生きるって心と身体があったかいことだと思う。 (女、18 歳、大学生)
16. 自分の将来をちゃんと考えなくてはいけないと思いました。 (女、17 歳、高校生)
17. 自分の家族がほしい！と思いました (女、19 歳、学生)

18. 「なくしたものにすがらない」生き方を家族に教わりました。 (男、50歳、教員)
19. 見方を変えれば、全てに幸せが詰まっていると思いました (女、16歳、高校生)
20. しあわせは、見つけるものではなく、気づくものだとわかりました。 (女、19歳、学生)
21. 何かを求めるのではなく「今あるもの」を大切にしようと思いました。 (男、30歳、看護師)
22. どんなことでも、得たことが誰かの力になると思いました。 (女、14歳、中学生)
23. 医療者として、改めて、誰かの想いに寄り添うことの大切さを感じました。 (女、35歳、医師)
24. 自分の将来をちゃんと考えなくてはいけないと思いました。 (女、17歳、高校生)
25. 幸せは、人のあたたかさ、つながりを日々感じられるかどうかによると思いました。 (女、19歳、学生)
26. たくさんの方に支えられ恵まれていることを、改めて教えてもらいました。 (女、14歳、中学生)
27. ひとりひとりの生き方、考え方があっていいのだと実感しました。 (女、30歳、支援学校教員)
28. 当たり前のことが、どれだけ大事か、日常の大切さをひしひしと感じました。 (男、43歳、教員)
29. 価値観は、いろいろであって良い、家族もいろいろであって良いと感じました。 (女、21歳、学生)
30. 私も病気があります。でも、いつも笑顔でいたら、きっと大丈夫と教えてもらいました。 (女、10歳、小学生)

* 2017年度全国の小中学校、大学、青少年団体における上映会からの感想の抜粋

学校上映の様子(一部抜粋)



学校全校生徒の前で、上映会の前に話をさせていただき、自分のことをして考えるきっかけを作った。

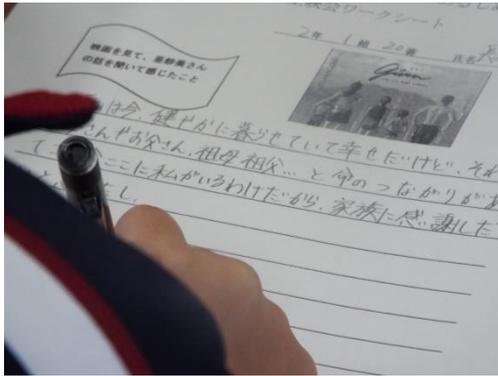
学生は、悩みながらも、一生懸命、自身のことを考えながら、上映ノートに記入していった。学校によっては、その後にディスカッションの時間を設けて、それぞれの想いを語る場面を展開した。



小学生は、長い時間にも関わらず、真剣に映画を観て、その後、各クラスでシートを書いたり、自身のことを語る時間を設けた。

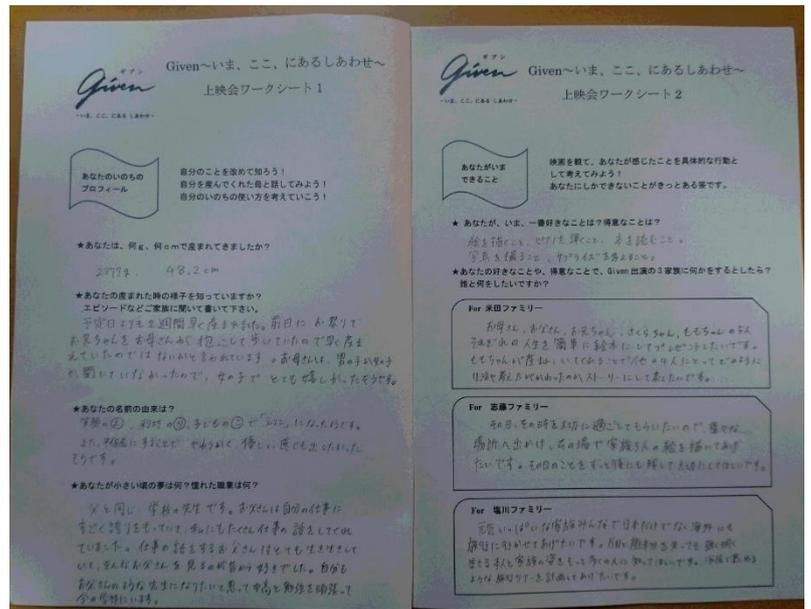
看護学生は、時折、涙しながらも、自身の将来のことや、進路のことを考えながら、病気に向き合う、ということ、命の現場に立ち会うということに、改めて覚悟を持った様子だった。





全体で映画を観た学校は、別時間に、シートを書く時間を設けたり、道徳の時間に、映画の感想を言い合うなどの時間を設けて、教職員が協力してくれて、学校全体で取り組んでくれたところも多かった。

小学生から、大学生まで、年齢差はあるものの、各人が映画を観たことで、自身のことや家族のことに向き合うことができたことや、自身に病気を持つ子どもは、家族や仲間を支えられていること、ひとりではない、ということが実感できた、など、様々な感想があがってきた。



映画鑑賞の後には、映画に関すること、難病の家族に関すること、いのちの関することなどを当法人代表やその他のスタッフが、生徒に語った。生徒父兄や教育委員会の人たちも鑑賞をし、彼らからの要望や声を聴くことも非常に良い機会となった。



本作品『Given～いま、ここ、にあるしあわせ～』の中で“語り”を担当して下さった綾戸智恵さん。思わずこぼれる飾らない言葉が、観る人の気持ちを3ファミリーのすぐ近くまで連れていってくれます。離婚、自身の病気、そして実母の介護……身に起こることすべてを、たくましさユーモアで引き受けてきた綾戸さんにぜひ聞いてみたい。

しあわせって何ですか？

しあわせってどこにあるんですか？

**大笑いと大泣きは背中合わせ。
そこに屈しない力が出てくる。**

大住 僕たちは「難病の子どもとその家族へ夢を」の活動を通じて、これまでに140組ほどの家族にお会いしてきました。みなさん、この映画にご登場いただいた3家族と同じように、真摯にいのちと向き合っている人たちです。でもお話を伺っていると、決していつもいつも頑張っているわけじゃない。中には父親が現実を受け入れられなくて逃げたというケースもあるようです。

綾戸 しょうがないわな。それぞれの家族に積み重なってきた過去の影響があるから、いいとか悪いとか、人には判断できへん。良寛さんが読まはった歌(※裏を見せ 表を見せて 散る紅葉)にもあるように、表だけ見せて落ちていく葉なんて1枚もない。裏、表、裏、表と両面見せながら散って、土になったら裏も表もわからんようになる。この映画の中でも、お母さんとお父さんが笑いながら泣いたりしてるやろ。大笑いと大泣きは背中合わせや。そこに屈しない力が出てくる。

大住 泣きながら食器洗ったりしてますよね。いろんな表と裏を一緒に経験している。

綾戸 冷静なところには笑いも涙もない。「何もない」という感情だけが別世界や。いのちもろたのに、死ぬまで何もせん人には、成長する題材はないと私は思う。

笑ったり泣いたり、腹立てたりする人は、最後にちゃんと答えが来るんや。

あの子らは「病気」という経験をしている。

その経験は、誰かに影響を与える。

大住 僕はこの団体を立ち上げるまで、長いことディズニーランドでサラリーマンをやっていました。あの会社には「ギブ ハピネス」っていうミッションがあって、「私たちの仕事はしあわせの提供です」と教えられます。けどしあわせって何でしょうね。僕はいまだにその正体がつかめないんです。

綾戸 おそらく「ギブ ハピネス」って最初に言うた人も、答えはわかってないんじゃない？ けど、「しあわせって何やねん？」って社員に考えてほしかったんやろな。みんな自分の人生と照らし合わせて、千差万別の受け取り方をしてると思うよ。

大住 しあわせは人それぞれに違う。正解があるともないとも言えないんでしょうね。

綾戸 しあわせも不幸も感情だから、形としてはないんですよ。この映画の最初に出てくる塩川さんの子どもだって、目を取って大変苦労した。けど、家族みんながああ屋根の下にやってきた苦しい偶然を、打ちひしがれることなく超えたやん。お母さんは「へーい！」言うてむちゃくちゃ強い。「目1個ないくらいええがな、あと1個あるやん」と観る人に思わせる。

でも人によっては「もう生きられん。ごはんは毒入れてみんな殺したるか」と思うお母さんもおるかもしれん。この他にもいろんな受け取り方があると思うわ。けど、ひとつだけはっきり言えるのは、人はいつか死ぬということ。生まれてから死ぬまでの間に、あの子らは「病気」という経験をしている。そして、その経験は誰かに影響を与える。

大住 映画に登場する米田さんの娘さんが、「将来はお医者さんになる」と言ったように。

綾戸 あの女の子だって家族に病人がおったから、「よっしゃ医者になったろ」て思たんよ。そやから、映画に出てくる病気の子たちのいのちは、その子の人生で結果を得られるんじゃないで、周りの誰かが影響を受けて明らかにしていくんや。

しあわせは目に見えへんけど、
ほんまは近くにあるんやで。

大住 最近、綾戸さんが「幸せだな」と感じたのはどんなことでしたか？

綾戸 息子の目見たときやろな。男の子やから、口では「おう」くらいしか言わへん。その目は笑ってるわけでもないんやけど、私にとっては成長の証や。私にしかわからん目やねん。たまにメールがきて、「明日のライブ、がんばってね」とか書いてあると、たったそんだけでもキアヌ・リーブスのキスより威力あんねん(笑)。普段から親孝行な子じゃないだけに、息子のちょっとした言葉は、私の宝もんや。

大住 こうして考えると、しあわせってどこにあるんでしょうね？

綾戸 そんなもん、答えられる人おるかいな！

大住 それでも、「すみません、幸せってどこにあるんですか？」って誰かに突然聞かれたら、綾戸さんは何と答えますか？

綾戸 「近くて見えんところ」って言うやろな。案外近くにあんねんけど、欲があるからわからへんねん。自分の首みたいなもんやな。人からは簡単に見えてんのに。

大住 確かに、自分の目で自分の首を見たことない(笑)。近すぎて見えないんでね。

綾戸 そう、あるのに見えんから、うっかり失ってしまう。だから多くの人が、「自分はバカだった」という瞬間があるんちゃうかな。私は60歳を目の前にした人間やけど、その自分がこの映画の語りを4やらせてもろてよかったなと思う。30歳くらいやったら、「こんな子ができて頑張れるわけないわ」と思うか、何も考えんとこの人たちに「気にするな、ガンバレ」と無神経に言うてるか、どっちかだったと思う。

でも今だからわかる。人はいのちもろて、いつか死んでいく。

これはその間の出来事や。それが無意味じゃないというために、この映画を撮ったんやろ。

人はこれを見て何か感じる。「何も感じない」ということも感じることのひとつやからな。いいも悪いも含めて、影響するのはええことやで。

大住 ええ、僕もそう思っています。今日はありがとうございました。

(綾戸智恵プロフィール)

綾戸知恵／ジャズシンガー

1957年 大阪生まれ。3才からクラシックピアノをはじめ、17才で単身渡米。ニューヨークではゴスペルワイヤーのメンバーとして活動。帰国後は大阪のジャズ・クラブで歌い、自主制作アルバムを3枚リリース。1998年6月、40歳のとき、アルバム「For All We Know」でメジャーデビューを果す。笑いあふれる快活なトークと美しいピアノで織りなすステージは、ジャズという枠組みを飛び越えて多くのファンを魅了している。「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」では、語りと主題歌を担当した。